

0452-2



弟るを

少尉少将好問を其弟二大尉附回申陳
化砲兵隊よりえりたる名を隊分と
名を其急上と名を其急上へし
南地より急上と名を其急上へし

二月廿七日

陸軍省

大坂海軍

建永二る

上領
三
三
三

元福園駐在官佐と来トて負ハ当分
ヨヨ事務取扱ハ也
又中風負ハ事多シ中少
同
免ハ地等ハ少
同

二月
然

少得

少得

0454

非

非

中らりし
 之を以て我に
 分はる中
 ノ所はる及
 ニりし
 然るに
 我に
 我に
 我に

馬リクダシセイ
 フサフシヨウシヨウ
 クモトケシダイ
 ソガシヨウシヨウ
 モトフクヲカケユウサ
 イカンスサキトシサダ
 フトウケコレ
 マデノジムトリアツカ
 ツセヲキタマタカ
 ニシテイワクトウタイ
 タイヅキケユウシヨウ
 イマインニツキタカ
 ンエコサイヨウアイナ
 リタクウカゴウ

進める七十一

中百

可成

輜重兵用駟鞍模範少調に依て

是に用て来りて輜重兵用駟鞍に儀ハ未タ

確定局に製式を以て其旨を以て

不意に之を以て其旨を以て其旨を以て

委員に委ねて模範一室を以て其旨を以て

わ

明治二十一年

大工長代役

二月七日

陸軍大佐原田一為

大工長代役

陸軍中佐保科正毅

陸軍少佐

陸軍少将小澤武雄

副七

修軍少估相亦近錄

書學校務員科長

修年方鼓色武

此書中嚴訛之不足惜

惟平古耐所因之新義

和原北堂輜重兵中隊長

修平子附錄
田正程

之術歸於中修長

陸平子詩集

前書
 副議長
 山田
 藤
 氏
 敬
 啓

向
 道

附
 録

[illegible]



0461

近同六十六号

四課

副

名第ニ号ニ号

山田軍曹再役之件ニ付同

カるル 近衛工兵中隊

陸軍少曹山田仙太郎

右之者明治九年五月五日服役満期ニ付再役教度段額

出至ニ付近甲第百九十二号ヲ以テ同年八月十八日相同同月

廿日進第千三百六号ヲ以テ親之趣御間届相成兩後

勤續罷在至然ニ来ル者古日右再役満期相成至如

尚又再役教度段額別紙之通親云云至云云平素行状

方正勤勞勉勵至ニ付親意御届届相成度依テ

別紙右在書及ヒ軍医診断書相副以段相同也

近衛部督少縣有朋代理

明治三十一年二月十六日

陸軍大佐樺山資紀

陸軍卿西郷從道殿抄理

陸軍少將小澤武相殿

向之儀平 局々云々 本々云々
おをさる

三々一白

仙太郎儀

不肖之身ヲ以テ陸軍少曹奉職羅在任知
去ル明治九年五月満期之節 天恩萬分
一モ不奉報故ヲ以テ再役致度段少領仕願
意御用所相成引續キ日夜勉務羅在任知
而又満役期限ニ至リ就而此任免役歸
郷致候ニ未タ遺憾ナサ奉存任間出格之御
水扱ヲ以テ猶又再役被仰付度此段奉願崔也

明治十年二月十九日

陸軍少曹山田仙太郎留

近衛都督
陸軍中將山縣有朋殿

鴻

之南工兵中隊

體格壯健

軍曹山田仙壽

久皮疹創

明治三十二年二月二十四

陸軍工區補水倉寛将

近衛正金中丞

八千六百番

近衛工兵中隊

陸軍々曹 山田仙太郎

嘉永五年二月十日生

履歴

明治五年一月十五日東京鎮名十五番大隊工八隊二等卒
被申付○同年五月五日東京鎮名工兵隊工編入被申付○
同月十九日陸軍々曹被申付○同八年二月廿四日近衛工兵隊
附被申付○同四月廿八日習志野原工野営演習三付為架橋
市川工出張同五月四日飯宮○同八月十一日一等給下賜候事
○同十月九日野営演習三付市川工出張同十九日習志野原工
出張十二月十五日市川工出張同十二月一日飯宮ス○同九年四月廿八日
為架橋市川工出張同五月四日飯宮同七月七日逆井工出張六月
二日飯宮○同年八月某日依願再役更ニ三ヶ年服役被申付

○同十月十三日習志野原ニ野宮演習ト出張同十月十九日
 飯宮○同十年二月廿八日西南賊徒征討ニ付出張同九月廿四日
 平芝ニ付十月十七日凱旋ス○同十一年二月十九日近衛工兵中隊
 第小隊左半小隊長更ニ被申付○同年九月廿四日より長途
 行軍演習ノ為メ中仙道ヨリ濃州岐阜ニ至リ又ヨリ東海ノ
 道十月三十日飯京



第二万二千九百

二等名老人古川重幸留任

中付床義存付

御

能奉鎮守附

二等名老人古川重幸

右定限之年雖起已取平付正役防多与別
我之由了願出處分體強壯に事務勉勵し者
其明治十四年十月也又、三十五年召任中付各以成
功也

才五高長

三年二月廿五

金村孝雄書四半光記

此軍下代

此軍少將不没如相殿

0468

白
三
月
七
日

陰
年
省

